

なぎさは海のゆりかご

海のゆりかご通信 No.13 Sep.2010

~ 藻場・干潟・サンゴ礁・ヨシ帯・浅場… 「なぎさ」は人と海との共生の場 ~

「なぎさシリーズ」

今回の旅は、北海道の南端にある北斗市 「上磯(かみいそ)」。砂浜がひろがるこ の地に、ホッキガイと呼ばれる貝が生息 する豊かな浅場(あさば)がある。この 浅場を大切に利用し・まもる漁師さん を、東京大学の八木さんが訪ねました。



なぎさシリーズ No.10

海の調査は漁師が主役

八木信行

ホッキガイ漁場のモニタリング

ホッキガイは、北海道産の二枚貝では、 ホタテに次ぐ重要な産品である。今回は、 北海道の北斗市上磯地区で毎年実施行われ ているホッキガイの資源モニタリングを取 材した。

上磯地区は、函館湾に面し、その南は津軽海峡という位置にある。ここでの主要な漁獲対象種は、サケ、イワシ類、ホッキガイである。ホッキガイ漁は、上磯地区の3本柱の1つとなっており、組合員 73 人のうち 55 人が従事している。北海道渡島総合振興局全体としては、ホッキガイの生産

金額は全水揚げ金額の1%にも満たない中で、この上磯地区はホッキガイへの依存度が極めて高い場所になっているのだ。

組合員も、ホッキガイが生息する環境の 保全や資源の管理について高い関心を持っ ている。組合内では資金を出し合い、平成 2年頃から定期的に漁場環境の調査や整備 などを実施してきている。また、昨年から は、「北斗市ホッキ貝環境保全活動組織」 が新たに結成され、ホッキガイの漁場でも ある地先海域の保全活動が活発化している。

\sim	都道府県:	北海道
	地域協議会:	北海道環境·生態系保全対策 協議会
	活動組織名:	北斗市ホッキ貝環境保全活動 組織
	協定先:	北斗市
JW.	構成員数:	135名
£	対象資源:	浅場
4/	活動内容:	計画づくり、モニタリング、機能 低下を招く生物の除去、耕うん



筆者が現地を取材した2010年7月28日は、モニタリングの調査日にあたっていた。

上磯郡漁業協同組合の約 10 人に加えて、北海道庁の渡島中部地区水産技術普及指導所から2名、北斗市水産林務課から1名が加勢し、朝から作業を行う。具体的には、湾内の砂地の漁場でもある浅場域(沖合方向300メートル、左右方向6000メートル)を25 の調査区にわけ、噴流式の桁引き船2隻を使って、それぞれの調査区の海底か



らホッキガイやその他の生物を採集する。 得られたサンプルは、船外機付きの運搬船 で漁協までピストン輸送される。これを漁 協内で待っていた組合員と行政関係者が手 分けして計測し、ホッキガイの生息密度や 体長組成、ホッキガイ以外の生物の個体数 や重量などを記録していくという作業だ。

作業場では、サンプルに混ざる砂泥をホースの水を使って落とし、採取された生物

を選り分ける人。ホッキガイの殻の長さを ミリ単位で計測し「105、98、88、103」な どと計測結果を伝える人。その横で、数字 を調査ノートに書き留める人。更には、貝 を開いて、その重量を貝殻と中身とを別々 に計測し、「殻 203 グラム、軟体部 99 グラ ム」などと読み上げる人、またそれを記録 する人。ホッキガイ以外の生物の種毎の重 量や個体数を計測・記録する人、計測済み



のサンプルを片付ける人など、チームで分 業体制ができている様子であった。

漁業者が調査活動に従事する意義

研究者と漁業者の信頼関係の構築は大きな課題である。研究者が出してきた資源調査の結果を漁業者が信用しないでトラブルになっている例は、日本だけでなく外国などでも見られる。しかし、ここでは漁業者自らが関与して資源の調査を実施している。



自ら調べた調査結果をもとに、自らが資源 管理のルールをつくり、それを皆で守ると いう状況があるため、操業モラルを高く保 てる構造になっているのだろう。

上磯地区のホッキガイ資源管理の努力

実際、上磯地区では、様々な資源管理の 取組みが実施されている。



第1に、漁具漁法の制限として、桁引き 漁具の使用禁止があげられる。このため、 漁業者は、突き採り漁法でホッキガイを漁 獲している。これは、7メートルぐらいの アルミ製の棒の先に4本の鉄製の爪が付い た道具を用い、船外機船を操りながら棒先 で海底の感触を探り、ホッキガイを探し当 てて鉄製の爪の間に挟み漁獲するというも のだ。

第2に、漁場の制限も実質的に導入されていると言って良い。突き採り漁法は、必然的に浅く、岸から近い場所でしか操業できない。深い場所は、保護されているということになる。

第3に、ホッキガイの体長制限もある。 一般的に北海道では、海面漁業調整規則で 7.5 センチ以下のホッキガイの漁獲が禁じ られている。しかし、上磯地区では、更に



厳しく、9.0 センチ以下のものは漁獲禁止になっている。

第4に、出漁日も限定されている。まず 日曜日は休みである。また、出漁時間も、 通常は1日2時間と決まっている。各船一 斉に操業を開始し、出漁開始の合図は、操 業委員が旗を揚げることでなされる。皆が 見えるところで操業する形態なので、抜け 駆けのようなことはできない。

加えて、漁期も制限されている。北海道では、上磯地区のホッキガイの解禁日を6月1日と定めているが、実際には、それよりも遅い解禁日になることもしばしばだ。ホッキガイは4月から5月ごろに産卵するため、禁漁となっている。しかし、年によっては6月早々のタイミングでは未だ産卵期が続いている時もある。上磯地区では、生殖腺の状況をモニターしつつ、必要があれば解禁を伸ばし、6月中旬近くまで禁漁



期間を延長することもあるという。

ホッキガイの販売は上磯地区でプール制により行わる。つまり、地区で一括して買受け人に販売され、漁業者個人が販売先と取引する方式ではない。ここまで紹介してきた操業規制が遵守される仕組みが、販売



面からも整っているということだ。なお、 付け加えれば、他の場所で行われているプール制は、売上げを均等配分する方式がよ く見られるが、上磯地区のホッキガイでは、 売上げは実績に応じた歩合制で配分する。 突き採り法は、習熟度の違いにより漁獲量 が大きく違うために、均等配分ではなく、 このような措置になったのかもしれない。

浅場域を守る活動

上磯地区では、漁獲対象となる水産物の 資源管理に加えて、漁場でもある浅場域の 環境を良好に保つための活動も盛んである。

1つは、海底の耕耘である。上磯地区では、普段、桁引きは禁止されているので、 普段は海底が耕耘される機会はあまりない。 今回のような資源調査の際に噴流式の桁引 き漁具を使用することで、海底が耕耘され る効果は大きいという。

2つめは、ヒトデの除去作業である。ヒ トデはホッキガイなどを食害する生物だ。 ここ数年、ヒトデが浅場域で大量に確認されるようになり、ホッキガイなどの二枚貝 資源に影響を及ぼしているとのことだ。このような中、漁協の潜水部会による潜水作 業や、かごを使用したヒトデの除去が実施 されている。

3つめは、河川の上流に植林を行うことで、水質を良好に保つ努力である。年に1回、上磯地区の上流に位置する川沿いにある北斗市の所有地に、北海道庁の補助で得た200-500本の苗木を、漁協の女性部が奉仕作業として植林する作業を行っている。海・川・森の連携については重要性がいろいろな場面で指摘されているが、ここでも流域を一貫とした保全活動が積極的になされているのだ。



最後に

以上、上磯地区のホッキガイに関する 様々な取組みを紹介してきた。資源調査、 操業ルールに関する合意形成作業、操業管 理の実施、監視作業、漁場でもある海域環 境の維持保全、それらを後世に伝えていく 機能など、公益性が高い取組みである。

取組みを実施するコストは、これまで漁協が負担してきた。従来は、このようなコストを負担しても、ホッキガイの販売が将

来増えれば、いずれは回収できる構造があったのであろう。しかしながら最近では、輸入水産物の増加により、水産物の価格形成が輸入品を中心に行われる実態が近年では多く発生するようになってきた。ホッキガイの場合も、カナダ産の競合商品の存在もあり、国産品の単価は 20 年前の約半分になっている。

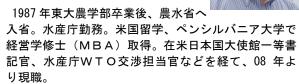
せっかく公益性が強い活動を漁協が行っても、昨今の状況では、そのコストが回収できない事態が起こりがちだ。このような



事例は、全国的にも多いのではないだろうか。昨年度から、藻場や干潟、浅場域などで実施される公益性の高い保全活動に対して支援する「環境・生態系保全対策」がスタートしているが、海の守人に対するこうした正当な支援を今後も行う必要性がある。上磯地区を取材しながら、そのような思いを新たにした。

~著者プロフィール~

八木信行 (やぎ のぶゆき) 氏 東京大学 大学院 農学生命科学 研究科 特任准教授・農学博士。



多国語を操る国際派。外国には外国の良さが、日本には日本の良さがある。その良さを生かす政策を実行することが重要と説く。

~ 編集後記 ~

今回訪問した北海道北斗市の上磯地区で紹介された"ホッキガイ"、北国ではメジャーな食べ物かもしれないが、全国的には寿司ネタとして食べるぐらいで、その実物を知る人は少ないのではないだろうか。

ホッキガイ(北寄貝)の正式和名は、ウバガイ(姥貝、雨波貝)。二枚貝のバカガイ科の仲間。殻は三角形に近い卵形で、厚くて重い。殻の色は、黒や茶のものがあるが、これは獲れる場所によって色が変わる。分布域は、鹿島灘以北の東北、北海道以北の冷水域の外洋に面した浅場(水深20m以浅の砂底)であり、産卵期は、5月下旬~8月中旬ごろである。

また、ホッキガイの特徴としてあげられるのは、食卓にあがるサイズに育つまでに要する時間が長いことである。上磯地区で漁獲されるホッキガイの殻長は 9cm 以上であるが、このサイズに達するには、7~10 年以上はかかる。言い換えると、もしホッキガイの資源がなくなると、7~10 年は食卓でそれを見ることができない。もちろん、その間、漁師さんたちもホッキガイで収入を得ることができないということである。だから、上磯地区の漁師さん達は、ホッキガイの資源管理を徹底し、また生息域の浅場が良好な状態を保てるように、様々な保全活動を行っているのである。

ホッキガイは私たちにとって単なる美味しい食材かもしれない。しかし、それが口に運ばれるまで

の時間や手間を考えると、本当に有り難く「いただく」ことが大事なんだと改めてこの取材で感じた。ちなみに、ホッキガイの旬は冬から春にかけて。食べ方は、新鮮なものは刺身・酢の物・寿司のネタ、またバター焼き、煮付け、混ぜご飯、カレーなどさまざま。私は、取材先で頂いたホッキガイを刺身、バター焼き、カレーで食べてみた。刺身も美味しかったが、バター焼きなど火を通すと甘みが更に増し、美味しさ 2 倍!!美味しいだけでなく、肝機能や動脈硬化の改善など成人病予防にも良いそうですよ!!!(吉)



技術をみがき・学ぶ「技術講習会」の開催

環境・生態系保全対策に参加す る・検討されている方々を対象 に、環境・生態系保全活動の技術 をみがく・学ぶための「技術講 習会」を開催します。

現在、多くの活動者が悩む「モ ニタリングの考え方や方法、結 果の見方・・etc」を中心に研修を 行います。ご応募お待ちしてい ます。

[干温]	三重会場	終了しました。
ヨシ帯	茨城会場	終了しました。
干潟 浅場	広島会場	終了しました。
藻 場	三重会場	終了しました。
藻場	北海道会場	終了しました。
サンゴ	沖縄会場	10月16日~17日
藻場	鹿児島会場	11月10日~11日

●詳細情報は!

ひとうみ. jp

トップページ「環境・生態系技術サポート情報」へ http://hitoumi.jp

これまで開催した講習会の状況も、 ひとうみ.jp で公開してます!!



「藻場・干潟・浅場・サンゴ礁・ヨシ帯の保全活動」事例発表会の開催 "なぎさの守人"シンポジウム 2011

"なぎさ"(藻場・干潟・浅場・サンゴ礁・ヨシ帯など)の保全に取り組み、その働きを 復活させようとがんばる漁師・市民・行政・・・そんな"なぎさの守人"たちの活動を紹介 するシンポジウムを開催します。

■**ブロック大会**:保全活動にたずさわる活動組織を全国4ブロックで紹介!

01/20 青森会場

青森県水産会館 青森市安方

01/27 広島会場

広島 YMCA ホール 広島市中区

02/02 静岡会場

クーポール会館 静岡市葵区

02/08 長崎会場

長崎県商工会議所 長崎市桜町

■中央大会:参加自由!

4つのブロック大会で紹介された代表的な保全活動の事例を紹介!

02/28 東京会場

グランドアーク半蔵門 東京都千代田区

環境・生態系保全対策に係わる地域協議会及び活動組織の皆さまへ 活動の紹介に関して、皆さまのご協力のほど、何卒よろしくお願いしま す。また、ブロック大会は、特に皆さまの情報交換の場にしたいと思っ ていますので、多数のご参加をお待ちしています。

詳しくは:JF 全漁連漁政部 環境生態系保全グループ

Tel: 03(3294)9617